

「医療サイバー訓練用XR開発分科会」の計画書

主査：東京工科大学デジタルヘルスイノベーションセンター（DHIC）

副主査：PwCJapan有限責任監査法人

2025年7月

分科会の計画概要（1/2）

【背景】

- 医療機関はセキュリティに投資するだけのリソース（ヒト・カネ・モノ）を構造的に確保することができない状況にあります。
- そのこともあり、医療機関の多くでは医療情報システムの管理を行う人員は、その他の業務を兼務しながらIT関連全般の業務を担う、「IT庶務」といった立ち位置に置かれざるを得ません。
- 一方、サイバー攻撃はそのような病院側の都合とは関係なく攻撃をしかけてくるため、そうした「IT庶務」のサイバーリテラシーの向上は不可欠な状況にもあります。
- そのような状況下、サイバーリテラシー向上には、座学のみでなく、AR（拡張現実）/VR（仮想現実）（※以下、XRと表記）の技術を用いて疑似的にサイバー訓練を行うという「疑似体験型」のアプローチも考えていく必要があると考えます。

【目的】

- 上記の背景のもと、本分科会の目的は以下2つの観点で進めていきます。
 - ＜短期的観点＞では、小規模病院・クリニックの「IT庶務」が疑似的なサイバー訓練を簡便に行うための特定のコンテンツ、及び当該コンテンツを実装したxRグラスの開発を行います。
 - ＜中長期的観点＞では、病院の機能・規模に応じた多様なシナリオに基づくサイバー訓練用のコンテンツ開発を行い、それらをクラウド環境に保管。xRグラスに利用者がクラウドから任意のコンテンツダウンロードを行い、いつでも好きなサイバー訓練を疑似的に行える環境を整備していきます。

【体制】

- 本分科会では、xRの技術開発力を有する東京工科大学DHICを主査、サイバーセキュリティに関する知見を有するPwCJapan有限責任監査法人を副主査とする体制で進めることとします。

分科会の計画概要（2/2）

【スケジュール/タイムライン】

- 現在、小規模病院・クリニックの「IT庶務」向けのサイバー訓練用XRツールの開発を進めており、プロトタイプの完成時期は2025年秋を目標としています。
- 2025年秋以降、このプロトタイプを実際に試着・体験するハンズオンを26年3月までの期間（予定期間）で複数回開催する計画です。
- 実際のツール試着・体験を前提とするため、オフライン型の開催（東京での現地開催を予定）となります。
- なお、分科会のキックオフはオンラインと現地開催のハイブリットで実施の予定です。

【成果物（25年度）】

- サイバー訓練XRツールのプロトタイプのハンズオン体験を通して頂いたコメントを基に、今後、本ツールの改良に向けた計画を共有します。
- また、座学のための体験と本ツールを用いた体験による、サイバー訓練効果の分析レポート等も適宜共有していくことで、疑似体験型のサイバー訓練の有効性・限界等について皆さんと共有・検討できるようにします。

分科会参加について

【分科会参加者について】

1. 参加者にお願いすること
 - 参加者にはサイバー訓練用XRツールを実際に体験し、フィードバックをしていただき、本ツールの更なる高度化に向けた意見を頂きたいと思っています。
2. 参加条件
 - 会場に現地参加頂ける方
 - 上記以外に特段の条件はありません。一般無料会員も参加可能です。
 - 特に医療機関で「IT庶務」的な役割を担っている方（現場の声）を歓迎します。ただし、それ以外の方の参加を制限するものではありません。
3. 参加可能人数数
 - ツール体験や意見交換時間等も考慮し、各回の参加者は毎回一定数に限定させていただきます。
 - 出来るだけ多くの方に体験頂きたいため、参加経験者を事務局側で調整する可能性があります。

【分科会への参加手続きについて】

- サイバー訓練XRツールのハンズオン開催日の1か月前を目途に、医療ISAC事務局より参加申請フォーム等のアナウンスを行います。それにあわせて参加希望者は登録をお願いします。



EoF